

1 ステアリン酸

2 凝固点の項を次のように改める。

3 凝固点 装置は内径約25 mm, 長さ約150 mmの試験管を, 内
4 径約40 mm, 長さ約160 mmの試験管の内側に取り付けられた構
5 造を持つものからなる。内側試験管は栓をし, その栓には最
6 小目盛りが0.2℃, 全長約175 mmの温度計を水銀球♦の上端
7 ♦が試験管の底から約15 mmの位置にくるように固定する。
8 内側試験管の栓は, 更に下端に外径約18 mmの輪が直角に
9 取り付けられたガラス製又は他の適切な材料からなるかき混
10 ぜ棒を通す穴を開けたものとする。1 Lのビーカーの中央に
11 上記のようにジャケットを取り付けた構造を持つ内側試験管
12 を取り付け, そのビーカーには, 適切な冷却液を上部から
13 20 mm以内まで満たす。試料をあらかじめ加温して溶かし,
14 内側試験管に温度計の水銀球が十分にかくれるまで入れ, 急
15 速に冷却し, 概略の凝固点を求める。内側試験管を概略の凝
16 固点よりも約5℃高い温度の浴に入れ, 最後の少量の結晶の
17 ほかは全て溶けるまで放置する。ビーカーに予想した凝固点
18 よりも5℃低い温度の水又は飽和食塩水を満たし, 内側試験
19 管を外側試験管に取り付ける。いくらかの種結晶が存在する
20 ことを確認し, 結晶が析出し始めるまで十分にかき混ぜる。
21 結晶が析出する際の最高温度を読み取り, 凝固点とする。

22 ♦また, 凝固点測定法 (2.42) に規定する装置も使用できる。
23 試料をあらかじめ加温して溶かし, 試料容器Bの標線Cまで
24 入れ, 浸線付温度計Fの浸線Hを試料のメニスカスに合わせ
25 た後, 急速に冷却し, 概略の凝固点を求める。試料容器Bを
26 概略の凝固点よりも約5℃高い温度の浴に入れ, 最後の少量
27 の結晶のほかは全て溶けるまで放置する。Dに予想した凝固
28 点よりも5℃低い温度の水又は飽和食塩水を満たし, BをA
29 に取り付ける。いくらかの種結晶が存在することを確認し,
30 結晶が析出し始めるまで十分にかき混ぜる。結晶が析出する
31 際の最高温度を読み取り, 凝固点とする。◆

32 凝固点は, ステアリン酸50は53 ~ 59℃, ステアリン酸
33 70は57 ~ 64℃及びステアリン酸95は64 ~ 69℃である。

34

35